トラック事業を未来へつなぐ

3つの委員会が取り組みを報告

構造的な人手不足に悩まされてきたトラック業界だが、手をこまねいてきたわけではない。愛知県トラック協会は、現在の労働力需給を見通し、3年前に「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）の実現に向けて協議会を発足させた。3か年計画の最終年度、他県に先駆けて動き出した独自プロジェクトの進捗はどうか。愛ト協が8月に開催した「事業者大会」で進み具合が報告された。

林田　トラック運送業界が深刻な人手不足から脱却するためには、ワーク・ライフ・バランス（WLB）の実現が不可欠です。愛知県トラック協会は、働き方改革が叫ばれる前の平成27年から、誇りを持って働き続けられる業界、一人一人の暮らしが豊かな業界を目指し、WLBに取り組んでいます。

3年目の今年は、生産性向上、元気促進・働き方、地域防災の3委員会が、課題解決策の実行と検証を行っています。まず、生産性向上委員会委員長の寺岡さんから、現在の取り組みを紹介ください。

荷主と粘り強く交渉

寺岡　機能している物流センターは、荷主と運送事業者が連携することで生産性を上げています。積み込み・荷降ろしの作業時間を短縮して待ち時間を削減するために、貨物量の平準化を荷主に対して粘り強く交渉していくことが必要です。

委員会では、企業から集まったビッグデータの有効活用を試みています。より多くのデータが集まれば歩留まりを良くすることができますので、皆さんのご協力をお願いします。

旧態依然とした対面点呼からT点呼に移行していくことで、労働力不足を補いながら生産性向上が実現できるという報告も受けています。

青木　デジタルタコグラフから荷待ち時間や積み下ろし時間が把握できますし、長時間労働、安全管理を「見える化」することもできます。これらのビッグデータをもっと活用していきたいですね。

若杉　荷主の輸送部門は非常に幅広く、ITを活用するにしても、発荷主と着荷主の理解をいただかないと生産性は上がりません。辛抱強く話し合うことが重要です。

林田　青木さん、元気促進・働き方委員会の取り組みは。

青木　トラック業界も高齢化の問題は避けて通れません。半面、70歳代で適性試験をパスする人も多く、そういう方は少しでも長く働き続けたいと思っているわけです。事故を未然に防ぎつつ、大切な経営資源である従業員を守ることに、企業は最大の投資をすべきではないでしょうか。現役時代に健康を担保することで、退職した後も元気で社会に貢献し、人生を全うすることができる。これが本当の働き方改革だと思うのです。

経済産業省が推進する健康経営優良法人認定制度をご存じでしょうか。2017年からスタートした制度で、健康経営に取り組む企業は業績が良くなるとPRしています。私どもも先日、健康宣言をして認定を受けました。認定の基準となる項目は、健康診断受診率100％、ストレスチェック、分煙等、どの企業でも取り組んでいることばかりです。大切な従業員を守るためにも、愛知が率先して健康経営を目指したいですね。

林田　地域防災委員会の取り組みについて、若杉さんお願いします。

物流を支える使命

若杉　われわれトラック事業者には、緊急時も普段と変わらず地域社会の物流を支え続けるという使命があります。その使命を全うするためにも、従業員の安全確保を第1に考えなければなりません。

当協会の中部トラック総合研修センター（みよし市）は、愛知県広域物資輸送拠点の指定を受けています。設備の整った施設を活用して災害時にどれだけ社会に貢献できるかということで、実際に研修センターを使った訓練も行っています。災害が起きたときに全員に共通認識を持っていただくために、今後は協会内でソフトの共有化を図っていく必要があります。

私は、当社の従業員に対して、まず自分を守るように教育しています。どこで災害が起きるか分からないので、車の中には必ず非常食を常備せよと。そして、災害時にはボランティアとして登録し、積極的に協力するよう働きかけています。このような地道な活動を通し、われわれトラック事業者が地域の皆さんに身近に感じてもらえるのではないでしょうか。

寺岡　私どもは、どうやってドライバーを確保して、どういうルートで納入するという契約を個別にお客様と交わしています。自社で対策を打つだけでなく、事業者同士も連携しないといけませんね。

社会に貢献できる仕事

青木　当社は、東日本大震災の翌々日から土曜日ごとに5～6回、トラック4台の救援物資を、東海市から姉妹提携市の釜石まで運びましたが、乗務員全員が「ぜひ行きたい」と名乗りを上げてくれました。任務を果たして戻った乗務員の誰もが、「人に喜ばれるこの仕事を選んで本当によかった」と涙を浮かべて話すのです。われわれトラック事業者の持つ機動力が、人の役に立つ。私たちはこんなにやりがいと誇りが持てて社会に貢献できる仕事をしているんだと、社員一同が改めて感じた出来事でした。

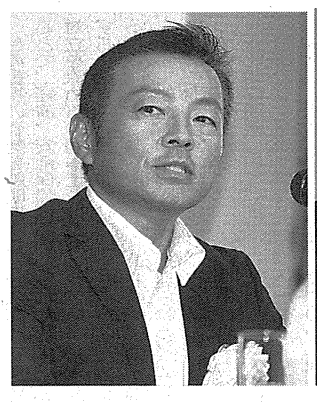
林田　最後に、それぞれキーワードで今日のテーマをまとめていただきましょう。

寺岡　キーワードは、「労働力確保との戦い」です。先般の経済財政諮問会議で外国人労働者の受け入れ拡大の検討対象として、農業、介護、建設など5業種が認められましたが、われわれトラック事業者は外されてしまいました。ここまで深刻な労働力不足は、女性や高齢者の力だけでは解決し切れない部分がありますので、外国人労働者の活用もぜひ認めていただきたい。今後も業界を挙げて「労働力確保との戦い」を続けていかなくてはなりません。

青木　「変化に柔軟、活き活き笑顔」がキーワードです。お客様の要望の変化に対してネガティブなイメージを持ってはいないでしょうか。お客様の変化をあるがままに肯定して、柔軟に活き活き笑顔で対応する。笑顔の輪が広がれば、業界のイメージアップにつながります。活き活きと働ける環境が整えば、おのずと最良の結果が得られると信じています。

若杉　キーワードは、「備える」です。明日起きるかもしれない災害に備えることはもちろんですが、緊急輸送に関わる立場として、災害時対応の指導的な立場に立つ人材（災害時のプロ）を育成する役割を、われわれは担っています。地域社会に貢献するための「備え」に、一丸となって取り組んでいく必要がありますね。

林田　「あいちのトラック運送事業者が一致団結してWLB（ワーク・ライフ・バランス）に取り組む理由」、それは深刻なドライバー不足を克服していくためにほかなりません。3つのキーワードを掲げつつ、愛知の取り組みをモデルケースとして全国に広げていただきたいと思います。

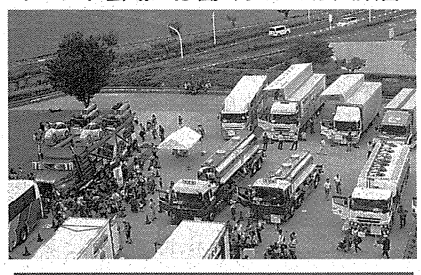

林田 充弘氏

寺岡 洋一氏

若杉 福雄氏

青木 均氏

イベント会場には働くクルマが大集合



10月9日は「トラックの日」

国内貨物、9割を輸送

国内の貨物輸送量は48億㌧。トラック輸送はその9割を占め、経済と生活を支えるライフラインの役割を担っている。基幹産業とも言えるトラック輸送の役割、重要性を社会にアピールしようと、10月9日を「トラックの日」に制定し、毎年イベントを開催している。

会場には、タンクローリーや冷凍車、ユニック車などの「働くクルマ」が大集合。スタンプラリーやクイズ形式で会場を回遊する仕組みを取り入れ、子どもたちがトラックに親しみを感じる工夫が盛りだくさん。

「ドライバーの家族が訪れるケースも多く、イベントを通じて、お父さんの仕事を理解してもらえるようです」と担当者。運転席でハンドルを握る企画もあり、未来のドライバー確保にもつながりそうだ。